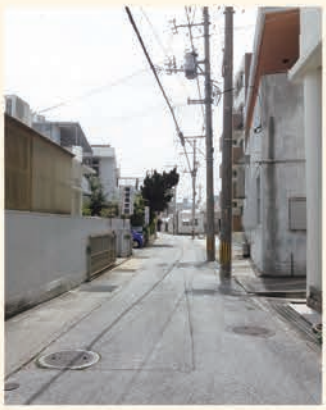
茶ぐわ～ わんたく 182

お茶を飲みながら、ぎのわんの歴史をのぞいてみませんか？

琉球王国時代の大動脈 中頭方西海道の痕跡を求めて

宜野湾市立博物館は、この6月で開館20周年を迎えます。当館は羽衣伝説ゆかりのある森川公園に隣接しており、察度に関連する文化財が周囲に点在することでも知られていますが、博物館の近くに琉球王国時代に整備された、かつての公道である中頭方西海道が通っていたことはご存知でしょうか？

西普天間住宅地区で確認された中頭方西海道については、市報2018年7月号「ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く 其の38」で紹介していますが、この道は首里城を起点として、宜野湾を縦断して読谷に至るルートで、国頭方西海道へ繋ぐ主要道路でした。



▲真志喜の中頭方西海道跡

『琉球国由来記』には、永楽年間（1403年～1425年）についての記事に、「東西ノ道」の記載があるため、この頃には中頭方西海道などの宿道が存在していた可能性があります。

市内は1960年代から開発が進み、かつての主要道路も失われつつありますが、今でも大謝名や伊佐などで、中頭方西海道の痕跡をうかがうことができます。上の写真は、当館から程近い、真志喜(南)の交差点から一本内陸側に入った筋道で、大謝名方面を撮影したものです。県道34号線まで続くこの筋道は、1945(昭和20)年に米軍が撮影した航空写真でも確認することができる旧道です。また、下の写真は、伊佐一丁目の国道58号とパイプラインの間にある筋道で、大山側からキャンプ瑞慶覧方面に向けて撮影しています。この2つの旧道の間には、道中の目印として一里(約4㎞)毎に築かれた、一里塚の地名を残す小字一里(いちり)原(ばる)が広がります。

みなさんも昔の道の痕跡を求めて、市内を散策しては如何でしょうか？

▲伊佐の中頭方西海道跡

【問合せ】
市立博物館 ☎870-9317

はくぶつかんの部屋 50

宜野湾市の歴史や文化などを紹介します。

市立博物館イメージキャラクター 天女ちゃん

―平和学習に博物館を―

今年も慰霊の日が近づいてきました。この時期、県内では平和学習に取り組む学生の姿が度々見られ、宜野湾市立博物館にもたくさんの方が訪れます。

当館では、戦前の基地がなかった頃のくらし、嘉数高地の激戦、洞窟に避難した住民、収容所での生活、普天間飛行場の建設と帰郷など、地元での出来事を中心に戦争と平和について考える学びの場を提供しています。今年の慰霊の日関連イベントは、写真パネル展「沖縄戦の中の宜野湾」（12日より開催）、市の先輩方から戦前の生活の様子を教わる講演会、市内戦跡をめぐる講座を開催します。

また、来館者からのご要望があれば、展示室内の団体見学ガイドや嘉数高台公園などでの現地学習にも対応しています。

展示室内の団体見学は、小さな子ども達から老人クラブの皆さんまで、幅広い世代のご来館があり、1週間前までのご予約があれば学芸員によるガイドをつけることが可能です。学校でのご来館や現地見学をご希望の場合は、事前予約をいただき、学習内容やスケジュールについて、引率代表者と博物館スタッフとの事前打ち合わせをお願いしています。

学生のみならず、これから平和学習をしようとお考えの皆さん、ぜひ地元の博物館もご活用ください。

▲戦前～戦中の宜野湾を知る（県外高校生）

▲嘉数高台公園での現地学習（市内高校生）

【問合せ】
市立博物館 ☎870-9317